

国際家族農業年を迎えて思うこと

国会でも家族農業が議論されるようになり、国際家族農業年も徐々に認知されつつあるようである。しかしながら家族農業という分野・分類は統計上には出てこないし、はっきりとした定義もなされていないように思える。また村田武先生によると国連世界食料保障委員会専門家ハイレベル・パネルの報告書では「小規模農業」という位置づけとなっているから益々ややこしくなってくる。どうもその原因は頭に「家族」という漠然とした言葉がついているからのように思える。そこで家族と農業を分離し、まず私なりに家族とは何かについて考えてみることにした。

家族について

昨年末、大金義昭氏から芹沢俊介著『家族という意思—よるべなき時代を生きる』をいただいた。高齢化社会のことを書いてあるのだらうと軽い気持ちで読み始めた。ところが吉本隆明の「対幻想」なる表現が出だしてから、なかなか前へ進まなくなってきた。とても簡単に言い表せないが、あえて言うとしたら、家族の本質とは対幻想であり、家族とは「自分のいのちの受けとめ手が一緒にいること」である。そこで家族とは対幻想を生きているということをしっかりと自覚した上で、「私の意志」として家族として生きていかねばならないということになる。

まさに言われてみれば全くそうだと思う。日頃、私たちは家族の中であって対幻想に振り回され、自己本位主義的志向にさいなまれ、葛藤しながら生きているのである。

しかしそのように思う一方で、家族農業という世界ではそうではないのではないかという疑問が頭をもたげてきた。私の家族農業の経験からしても、確かに多人数であり嫁姑関係など複雑ではある。しかし家族それぞれが家族みんなの幸せを思い、家族がここを一つにしてお互いに助けあって生きていく、またお互いが「いのちの受け手であり受けられ手」ということを無自覚のうちに認めあって、世代を越えて生きてきたように思う。それも自然を相手に、自然の中で生かされながら。

(注) 吉本隆明は『共同幻想論』で、人間関係の観念を共同幻想、対幻想、自己幻想に区分し、対幻想は個人が他の一人の個人と関係づけられるときに出てくる意識の領域(家族、性関係など)としている。

3月7日 本誌「国際家族農業年」座談会について

詳細は本論に譲り、「座談会」を通して多くのことを考えさせられた。まず家族農業については、家族労働(含む親戚)を中心とした農業経営ということになっ

たが、その後もいろいろと考えてみると、どうもこれまで私たちは家族農業＝非効率＝前近代的農業としてとらえ、近代的農業＝効率的＝企業的(法人)農業＝資本主義的農業＝経営と労働の分離は先進的でいいことであるとの固定観念で判断しているように思えてならない。

そうしたなかで佛田さんが「非効率の効率」ということを言われた。全くそうである。家族農業は非効率に思えるが非常に効率的な部分もある。家族農業はそれぞれの世代がそれぞれに適応した作業を分担し、それぞれが経営全体を頭にイメージしながら命令されるのではなく「あうんの呼吸」の中で効率的に作業が流れ、労働生産性だけでは推し測れないものが存在している。

3月8日 日本農業賞表彰式について

広島県の幸水農園が大賞を受賞されたので私も出席させていただいた。さすが日本農業賞、すばらしい経営のオンパレードである。しかも受賞したすべてが家族農業なのだ。受賞者挨拶をされた個別経営の部大賞の大塚夫妻は都会から農家に嫁がれ、家族に支えられながらの涙の物語であり、若い経営者が先進的な農業経営に挑戦するのを家族が一体となって盛り立てている。そして集団組織の部にしても構成員が協同の力を発揮しての成果であるし、夢の架け橋の部大賞の特定非営利活動法人「えがおつなげて」は、東京の企業労働者とのコラボによる地域再生であり、人間再生である。

私はこれらの光景を目の当たりにし、今、農業改革、規制改革会議で企業参入オンリーの議論がなされていることが現実とかけ離れた異質の別世界の議論に思えてならなかった。

トータルな人間の生き方としての家族農業について

こうなると、つくづく自然の中で家族が世代を越えて助け合い生きていく家族農業は、最高の理想の生き方のように思えてきた。常々私が言ってきた「家族農業で生きていければ最高」である。

家族農業というと重労働で家父長的で旧態依然たる非効率な経営のようにイメージされてきたが、少なくとも今日の日本では、個人個人が尊重され、機械化もされ、しっかりとした経営理念を持ち、みんなが幸せに暮らしたいという共通の願いのもと、お互いに助けあって暮らす。よるべなき時代にあって、そこには家族崩壊も無縁社会もなく、労働における人間疎外もなく、順々送りの世界で共に一生懸命生きていける人間の最高の生き方のように思えてきた。

改めてトータルな人間の生き方として、家族農業について再認識されるべき年だと思う。

(全国農業協同組合中央会 副会長 村上光雄・むらかみ みつお)